

# 04年タコ

単位：数量，1000トン、価格，円/kg

年	数 量						価 格				輸 入 国								
	漁獲	産地	輸 入	消費地	消費地生(%)	支出 庫	産地	輸 入	消費地	消費地生(円)	支出	モロ	モー	リカ	ナ	タ	メキ	ベト	中
15	61	7.0	55.9	26.1	921	23.7	323	640	835	1519	21.0	11.8	4.6	3.0	0.0	4.9	7.2		
16	54	6.2	53.3	25.2	867	21.2	350	646	858	1429	5.2	14.5	4.2	3.4	0.6	5.9	13.1		
%	89	89	95	97	94	89	108	101	103	94	25	123	91	114	###	119	184		

## 輸 入 の 動 向

16年の輸入量は、5.3万トンで前年の5.6万トンを引続きやや下回った。これは引続きサハラ沖漁場の長期休漁と漁場の不漁のためであるが、大半がモロッコの減少を反映したものである。

本年の西アフリカ漁は、モロッコでの休漁期間の恒常化とTAC（年間5万トン）による生産規制の結果を反映したものである。

本年の西アフリカ夏ダコトロール漁は、15年9月から16年5月14日まで休漁、5月15日解禁となったが、大型主体に推移、ダクラの陸凍ツボタコ漁も6月中旬で休漁であり大型主体で推移したが何れも低調な漁であった。

モロッコの冬ダコ漁は9～12月(昨年9～12月)の休漁で12月15日解禁となったが、11月1日解禁のモーリタニア含めて（スペイン船も含む）低調であった。

アソートは休漁を挟んだ夏漁が漁場域の北と南によって北が大型3,4,5番主体、南が小型7,8,9番であった。ツボは大型の3,4,5番主体であった。冬漁は小型規制もあり6番サイズ主体で国内向けには春需にあったサイズとなった。

市況は、本年の昨年同様長期休漁措置で約4ヶ月の操業、漁獲減枠の設定（TACの設定）等も重なり引続き上昇したが、国内マーケットの縮小もあり、緩やかになっている。

大型サイズは依然EUを始めとした競合も多く、夏ダコは本年もEU向けに多く買われている。

輸入国は、長らく首位を占めていたモロッコが本年遂にその座から滑り落ち、モーリタニアが27%で前年(21%)を上回り、モロッコは10%（前年38%）とシェアが大きく落としている。代わって中国が25%（前年9%）とモロッコを上回るようになっており、ベトナム、タイの台頭も顕著になってきた。

輸入価格は、646円と前年（640円）をやや上回り、依然モロッコ以外の各産地での上昇もみられている。

また本年も西アフリカ沖の漁獲減少もあり、マダコ、ミズダコ、ヤナギタコ、中国イワダコ製品等の搬入等、供給をめぐって国内側の変化も供給の変化に対応し多様化している。

## 在 庫 量

本年の平均在庫量は、2.1万トンと国内生産の低調さと輸入物減少を反映し、前年（2.4万トン）を更に下回り、近年では最低であった1998(平成10)年を下回る少なさであった。

越年在庫は2万トンで前年（2.2万トン）を更に下回っている。

本年の在庫アソートは品質の悪い大型が最終的には多く残った。

## 消費地入荷量と価格

16年の消費地入荷量（10大都市）は、2.5万トンで低調な輸入量を背景に引続き前年（2.6万トン）をやや下回った。

本年はマーケット減少の影響を受けて末端小売店で定着していた特売は少なくなっており、マーケット回復の兆しはみられなかった。

家庭消費支出は、量的、金額とも依然落ち込みが顕著。

価格は、858円で前年（835円）を前年同様引続きやや上回り、本年も産地価格、輸入価格と消費地価格は連動していた。